

オーボエ, 吹奏楽・アンサンブル アドバイザー



田淵 哲也

宇都宮市出身。13歳よりオーボエを始める。

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科オーボエ専攻卒業。

1993年、東京文化会館新進音楽家デビューオーディション合格・同会館新進音楽家デビューコンサート出演。

(現在の東京音楽コンクール)

1996年、第2回浜松国際管楽器フェスティバルにおいて新人演奏会出演。

1997年、東京藝術大学室内楽オーディション合格・同大学室内楽演奏会出演(木管5重奏)

オーボエを斎藤享久、鈴木尚雄、河野剛、小畑善昭、G.シュマルフスの各氏に、室内楽を山本正治、四戸世紀、岡本正之の各氏に、指揮を城谷正博、黒尾実の各氏に師事。

現在、ソロ、室内楽、オーケストラ等の演奏活動の傍ら後進の指導にも力を注いでおり、毎年、東京芸大をはじめ各音楽大学、音楽高校へ生徒を進めている。

吹奏楽の分野でも2008年より宇都宮短期大学附属高等学校OBOGウインドオーケストラを指揮し5年連続県代表として東関東大会出場。現在、宇都宮短期大学附属高等学校吹奏楽部常任指揮者。

2015年栃木県優秀者指導者賞受賞。

オーボエの指導では全国各地の学校を指導し全国大会出場団体では埼玉県埼玉栄高等学校、伊奈学園総合高校、千葉県柏市立柏高等学校、福島県立湯本高等学校吹奏楽部、石川県額中学校(2015)石川県津幡南中学校(2016)石川県小松明峰高等学校(2017)石川県大徳中学校(2017)のオーボエトレーナーを務める。

吹奏楽コンクールの県、支部大会の審査員の他、ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会、日本クラシックコンクール全国大会などの審査員も務める

アンサンブル「イヴローニュ」、森の五重奏団、MCFオーケストラとちぎ、東京アーティスト合奏団オーボエ奏者。

日本吹奏楽指導者協会(JBA)会員

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師、洗足学園音楽大学准教授、新潟県新潟中央高等学校音楽科講師。

～それぞれの場面で大切なこと～

1. 独奏

音楽を奏でるには表現豊かな音をつくることが大切です。聴いている人に喜びや感動を与える演奏は、表現力が豊かでなければなりません。音楽は音で表現をするわけですから、いくら表現しようとする気持ちがあったとしても、それを音に託すことができれば聴き手に届きません。音色や音質、音量など豊かな音を目指して練習をしてください。

自分が気に入っている演奏を徹底的に聴き、表現方法を真似をしながら学ぶことも一つの方法だと思います。そして自分の楽器だけでなく他の楽器だったらこのメロディをどう演奏するだろう？どう表現するのかいろんなジャンル、いろんな楽器の演奏をたくさん聴いて学んでください。

2. 室内楽

アンサンブルは、音楽のいちばんの土台になる部分です。

オーケストラや吹奏楽の規模になっても、基本はアンサンブルです。

音楽の基礎を養う事が大切です。

アンサンブルの要はお互いの音を聴き合うこと。基本的に指揮者なしで演奏される室内楽では、演奏家の間で呼吸を合わせることがより重要になってきます。それぞれの楽器がどのように互いに「会話」をしながら一つの音楽を作っていく。こういうことを表現したい、こういう色彩で描きたいといったことを、ソロの場合は自分ひとりで決めていくわけですが、ソロの場合は自分ひとりで決めていくわけですが、アンサンブルではメンバー同士で

いろいろな意見を出し合い、より素晴らしいものができあがっていく。そのプロセスがとても大切で勉強になります。



3. 合奏

楽譜には音譜が書かれていても、音楽そのものが書かれているわけではありません。音の微妙な強弱やタイミングによって表情をつけて、聞く人を感動させる音楽を表現するには、やはり個々の演奏者の力が必要です。指揮者の役割は、個々の奏者が持っている音楽表現力を練習などを通じて引き出していくことです。

大切なことは、メンバー同士がお互いに良い影響を与え刺激し合うことが大切です。演奏者それぞれが持っている音楽表現力、演奏者同士のハーモニー、そして指揮者を含めた全員が「こういう音楽を聞いてもらいたい」という目標の共有、そうしたことをお互いにコミュニケーションを取り合い、確かめ合うことで、より良い演奏が作り上げられます。

指揮者や他の演奏者同士が、お互いのコミュニケーションを通して、協調し各々が持つ音楽表現力を発揮することで、良い音楽を奏でられ、その結果良い合奏となりそのオーケストラ、バンドのカラーになっていくのだと思います。

演奏者がお互いに協調しつつ、それぞれのパートを奏でていくことによって、良い音楽が奏でられる合奏となるように、メンバーがどのような音を発しているか確認することが大切です。

各メンバーが耳を澄ましてまわりの音を聞き、自分のだすべき適切な音を判断しているでしょうか？

メンバーの中から音楽がどのように湧き出し、どのように流れて、周囲にどのように影響を及ぼしているのかを常にアンテナを張り巡らせ確かめることが重要です。

そうすれば指揮者を中心に素晴らしい演奏になると思います。

～さいごに～

基礎練習はもちろんの事、一音一音自分の音楽が聴いている人に伝わるよう心掛けて演奏してください。

